

# みぬまハウス 通信

第22号 2015年1月15日発行  
さいたま市見沼区大和田 2-1288-4  
NPO法人 みぬまで暮らす会  
TEL/FAX 048-796-0295  
<http://www.minuma-hausu.net/>

☆ 「三つのサービスの組み合わせ」で

今年も皆さまのご相談をお受けします ☆

生活支援サービス事業に加え、介護保険事業（訪問介護）を開始し、身体介護、家事援助、デイサービスへの送り出しなど、休日返上でヘルパーたちが利用者様宅に伺っています。今年も皆さまの日常の困りごとのご相談をお受けします。

- ① 要介護認定の申請代行→ケアプランの作成→ヘルパーの派遣と、一連の支援を行っています。
- ② 足腰が弱くて外出が困難な方には「移送サービス」。
- ③ 介護保険外の日常生活の支援は、「生活支援サービス」をご利用いただけます。

三つのサービスを組み合わせ、介護保険・介護保険外の費用負担ができるだけ少なく済むように、コーディネーターが相談に応じているところがみぬまハウスの特徴です。ひとりで悩んでいないで、「困ったときは、みぬまハウス」「とにかくまずは、みぬまハウス」です。

☆ 終活講座「転ばぬ先の杖」は好評のうちに終了しました ☆

大和田町・堀崎町・大和田東・蓮沼の自治会の協力を得て90名もの大勢の人々から参加申し込みを頂いた終活講座（7回連続）は、見沼区役所1階の多目的ルームで行われ、10月17日の最終回「ワークショップ…困難事例についてグループごとにディスカッションし解決策を探る」の講座をもって、好評のうちに終了しました。

介護保険制度の改正に伴うこれからの在宅介護、在宅医療や在宅看護、地域の見守り活動、終の棲家探し等々、課題山積です。これからの私たちの暮らしにとって、地域住民同士の助け合いが大切なことを皆で学び合うことができました。



この講座は「さいたま市見沼区市民活動ネットワーク事業」の助成金を受けて開催しました。

## ☆ みぬまハウス千客万来 ☆



「困ったときは、みぬまハウス」の合い言葉に励まされて、早産して里帰りした娘の支援をお願いしました。まず、おっぱいが出ない。授乳指導をしている蓮田のクリニックを紹介してくれました。そのクリニックの助産師さんはタクシーの往復だけで5千円かかることを知ると、自宅に近い方がいいと大和田町の母乳相談室を教えてくださいました。歩ける距離ではなかったので送迎を、みぬまハウスをお願いしたら、快く引き受けてくれて、大変助かりました。ありがとうございました！（会員）

## ☆ ハロウィン 大盛況 ☆

10月25日、大和田銀座通り商店会主催のハロウィンでは、スタンプラリーのカードを持った子どもたちが、みぬまハウスにも大勢やってきました。

午後のパーティ会場も大賑わい。白バイの警察官が子どもたちに自転車の乗り方講習をしてくださり、楽しい大道芸やジャンケン大会で盛り上がりました。



## ☆ 見沼区民ふれあいフェアに参加しました ☆

11月8日、毎年恒例の「ふれあいフェア」が、見沼区役所の駐車場とグラウンドで開催されました。

みぬまハウスは、活動のパネル展示と、会員さんたちの手作り作品や提供品の販売をしました。

みぬまハウスのブースにはご近所の方々が集まって、にぎやかな交流の場となりました。

### 介護保険外の生活支援サービスのご案内

みぬまハウスは、介護保険で賄えない生活のあれこれを会員同士で支え合っています。利用した人は1時間700円を支払います。（超過30分ごとに300円）いつでもサポーター募集中です。あなたも支え合いの仲間になりませんか。

## ☆ 終活くらぶからのお知らせ ☆

第3水曜日の午後に行われている終活くらぶでは、皆で話し合いながら「私の遺言ノート」を作成しています。もしものことが起きたとき、遺された家族が困ったり争ったりすることがないように、財産や相続に関する事柄を整理し記載しておくノートです。現在、編集が終わり校正の段階に入っています。

緊急時に誰かにすぐ見てもらうために作られた、家族の連絡先や終末期医療に関する自分の意思を書いておく「緊急対応ノート」と併せてご利用いただければ、もしものときへの準備は万端。あとは安心して日々を楽しく過ごすことに専念したいものです。「私の遺言ノート」の発売は3月の予定です。

